

宮城学院女子大学発達科学研究  
2012. 12. 91-92

(91)

## 映画上映会記録「3. 11 その時、保育園は」

(監修：天野珠路、制作：岩波映像) 上映会記録

天野珠路・大矢恭一・伊藤義将

**畑山みさ子** (司会) : 2011年3月11日の東日本大震災時に、保育所保育園では幼い子どもたちを守るために大変な努力をし、多くの命を守ることができました。本映画は震災時の保育の現場を検証し、今後の防災対策や保育実践に生かしていくことを目的に作成されました。本日の上映会には監修の天野珠路先生(日本女子体育大学)始め、スタッフの方々もお見えです。初めに天野先生からご挨拶をお願いします。

**天野珠路** (監修者) : 皆様こんにちは。



今回の震災では本当に大変な思いをなさった方々も多くいらっしゃるかと存じます。昨日気仙沼で上映会を開きました。被災地の方々にとっては思い出したくないことなどもあったと思いますが、今後の防災のために貴重な映像を残してくれたと励ましの言葉をいただきました。今日は岩波映像の社長もお見えですので、一言ご挨拶をいただきたいと思います。

**大矢恭一** (岩波映像株式会社代表取締役) : こんにちは。多くの皆様にお出でいただきありがとうございます。昨日気仙沼でも大勢の方々にお出でいただきました。今日仙台に入る前に気仙沼市内を見て来ましたが、あれから9ヵ月経つというのに当時のままの状況に唖然といたしました。私



ども岩波映像は岩波映画の時代から文部省の依頼を受け、幼児教育関係の映画を作っていました。この3.11の出来事についても幼児に焦点を当てた記録を残しておきたいと思った次第です。天野先生には以前保育所保育指針の映画作成に関わっていただきました。この映画も監修が大変重要な意味を持ちますので、今回も天野先生にお願いいたしました。また私どもは子どもにばかり目を向けておりましたが、この映画の最後の所で畑山先生が保育士の心のケアも大事と述べておられ、このことにも改めて気付かされました。なおこの映画はキネマ旬報12月号でも取り上げられましたので、機会がありましたらこちらをご覧ください。

**天野** : 本映画は「検証編」と「証言編」の2部から成っています。まず「検証編」からご覧下さい。ここでは様々な側面から保育園の役割、防災の観点からの見直し、普段からの子どもとの関わりの重要性、地域全体の防災など、多方面からアプローチしています。皆様方のお立場から関連づけお考えいただければ幸いです。

映画「3.11 その時、保育園は(検証編)」(60分)  
上映

天野：「証言編」では、岩手や福島など3県14園が撮影に応じて下さいました。その他横浜や青森などを入れて撮影協力17園、資料提供を含めると21園の協力をいただきました。大変厳しい状況の中で撮影に応じて下さった方々には本当に感謝いたします。今日は宮城県編の中から名取市の閑上保育所と仙台市の福室希望園の証言をご覧下さい。

**映画「3.11 その時、保育園は（証言編）」の中から閑上保育所と福室希望園の部（30分）を上映**

天野：今日は時間の関係でこの2園の証言だけを見ていただきました。用意しました資料に沿ってこの映画で語られた事柄について簡単にまとめて説明いたします。

1. 東日本大震災と保育所（園） — ここでは、①広範囲にわたる甚大な被害、②保育中の災害～保育所の対応と避難、③厳しい避難生活、④放射能汚染対策、などの様子を見ていただきました。

2. 大震災がもたらした課題

①防災対策の確認・見直し — 震災後に各地で避難経路・避難方法・避難先の見直しが行われていると聞きます。乳幼児にふさわしい避難先、保護者への周知・連絡方法の見直し、初動体制と指示系統の確立、職員間の連携、食料備蓄の見直し、地域の特性に即した防災対策などが求められています。

②日常の中での安全保育の実践 — 避難計画の計画的実施と評価、保護者への周知と共通理解、子どもとの信頼関係の構築、おんぶ等の経験、子ども自身が災害や安全への意識を高め、身の安全を守ろうとするものの必要性についても考えなければなりません。

③子どもと保護者の心のケアも今後の課題です。資料の裏には「保育とカリキュラム12月号」に書きました「子どもの心のケアと保育者」も載せましたので、どうぞお読みになって下さい。

今日はずっと一緒にこの映画の製作に関わって



きた伊藤監督も来ていますので、一言どうぞ。

伊藤義将（映画監督）：この取材を通して、保育士さんたちは本当に子どもたちのことを考えて仕事をしてくれていることがよく分かりました。取材で出会った保育士さんは本音のところまで語ってくれました。避難ルートも決められた通りではなく、自分たちが普段確認していたより安全なところに避難したことなども、子どもの命を預かる使命からなされたことと思えました。福島での保育所では、親御さんは信頼できる保育士さんに心配事を相談していることが分かります。保育士の仕事は本当に大変で、期待され信頼される仕事だと実感し、それを少しでも伝えることができればと思ってこの仕事をしてきました。

天野：10月22日に東京で上映会を開きました。そこには保育士だけでなく、大勢の方が見に来て下さり、保育園ではこんなに大変な仕事をしているのかと感銘を受けたという感想が多く寄せられました。この映画を通して多くの方々が保育士の仕事を再認識下さり、また保育士の仕事の地位向上につながっていくことを願っています。今日はお忙しい中お越し下さり、本当にありがとうございました。

日時：2011年12月17日（土）14:00～16:30

会場：宮城学院女子大学C201教室

共催：宮城県保育協議会、仙台市保育所連合会、  
仙台市私立保育園協議会

参加者：190名

（文責：畑山みさ子）